

Keeping Up with the Joneses

人と比較する生き方から自由になりたい!

グリニッチ福音キリスト教会

牧師 立石尚志

アメリカに住んでいれば、一度はこの表現を聞いたことがあるかも知れませんが。訳すなら「ジョーンズ家に負けてはいられない」となるこの表現、「近所同士の見栄の張り合い」を意味する慣用句です。ジョーンズという苗字が平凡さを醸し出すため、社会のどんな層の人でも比較や見栄に縛られやすいことをうまく表現していると思います。人と比べるのが好きなのは日本人だけかと思ったら、アメリカ人も負けず劣らず、いや、案外日本人以上に比べるのが好きかもしれません。ここアメリカでは時折、自動車がいつもガレージの前に置いてあるのを見かけたりします。何でか、とその理由を聞いてみると、ガレージが不用品でいっぱいなので車が入らない、という半分冗談に聞こえるようなことが実際にあったりします。AFFLUENZA

という言葉もあります。affluence/富と influenza/インフルエンザを組み合わせた造語ですが、クレジットカードによる借金で苦しんでいる人々がかかっている病気とされています。つまり借金してまで物質的豊かさを求めてしまうのです。

狭い日本ではガレージいっぱいにも物を買うとか、ひたすら大きな邸宅を求めることはそもそも無理なので、立場的な事柄や細かい所での競争が繰り広げられます。子供の塾・習い事、学校・学歴、被服、持ち物、住居、年収、老後の余裕等々、どんなものでも比較や嫉み、見栄の対象にいと簡単に なってしまいます。誰もが、真の豊かさや真の喜びは人よりいいものを、人より少しでも多く、というような比較の世界には無い、と頭では分かっているのですが、それでも結局、人と比較してしまい、嫉み、優越感に浸り、keeping up with the Joneses メンタリティーに流されているのが私たちの現状かも知れません。そしてこのような生き方に私たちは疲れを覚えるのです。果たして、根本的に異なった基準で生きる方法はあるのでしょうか。果たして、人と比較する生き方から自由になることができるのでしょうか。

(次のページに続く)

信仰告白 (受洗の証心)

匿名

4月12日イースターにグリニッチ福音キリスト教会にて受洗

1. 教会付属幼稚園

私は幼稚園と大学でキリスト教に触れました。父の仕事の関係で子供時代を広島で過ごしましたが、ここで通ったのがアライアンス幼稚園という、教会付属の幼稚園でした。そこでの1年間、私は日曜日、教会に通いました。毎週捧げ物のリンゴやみかんを1つ持つていくのをとても楽しみにしていました。そして時々お祈りに答えてくださる神様を近くに感じていました。それから何度も転居をし、その思いも途切れてしまいました。

2007年4月、長男が幼稚園に入学することになりました。その時私がかよったあの幼稚園のことを思い、近くの教会付属の幼稚園を迷わず選びました。その頃私は漠然と聖書を学びたいと思い、保護者のための聖書勉強会に参加しようとしていました。

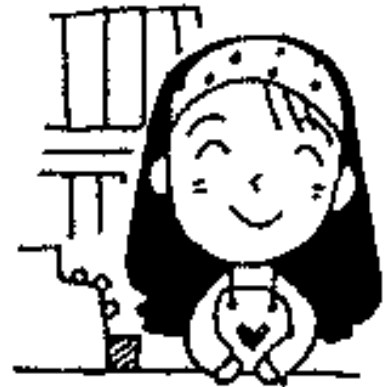
2. 神様を信じ始める

長男も幼稚園生活に慣れ始めた6月、母が末期ガンであること、余命半年であることを知らされました。私は動転し、泣き暮らす毎日でした。しかし告知後すぐ、関西在住の母が東京で治療を受けることになり上京してまいりました。良い先生が見つかったとの知らせを受けたのです。父の必死の努力が実ったのだと思いました。しかしその先生は手術はできないとおっしゃいました。それでも父をはじめ私達家族は手術を引き受けてくださる先生を探し7月、膵臓ガン

手術の第一人者である先生の手術を受けることができました。その時もまた努力が実ったのだと思いました。そして手術を終え、退院してくる母の為に部屋を探すことになりました。ちょうど良い部屋はどこも空いておらず困り果てているとき、不動産屋さんから手渡された紙には母の為に用意されたような部屋が入居者を募集していました。その部屋は窓から長男の通う幼稚園の教会が正面に見える部屋でした。私はこの時、努力が実ったのだとは思いませんでした。そしてこれまで起ったことを思い返し、ぼんやり信じ始めていた神様に感謝しました。私はたぶん神様を求めていました。しかしそれは私の心の底にしまっていたことです。そのことも神様はどうにご存知で私のことを気に掛けてくださっていたのだと思いました。

3. 神様が下さったプレゼント

その年が明け3月、突然主人にNY転勤の辞令が出ました。病気の母を残しての渡米はとても辛いものとなりました。そしてアメリカと日本を往復する生活になりました。その後も次々と画期的な治療を受ける道が開けましたが告知から1年10ヶ月後、母は亡くなりました。神様は私に時間という最大のプレゼントもくださいました。結婚後すぐ上京した私は母に尽くすことのない生活でした。むしろまだ元気な母に頼りきっていました。しかし母が病に倒れてから僅かでしたが、私は母に尽くすことができ



ました。このことは私の心を平安にしました。イエス様が苦しむ人に寄り添われたように、私にもイエス様は寄り添い、共に苦しんでくださいました。

4. 求道、そして洗礼

母が亡くなったことで真剣に聖書を学ぼうと思いました。グリニッチに日本語教会があることを知りましたがHPを眺めている日々でした。そしてまた神様は息子の通う幼稚園のお母さんを通じて私を家庭集會に導いてくださいました。その日、私はマタイ7:7に出会いました。

マタイ7:7 「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。」

私は知らず知らずのうちに神様を求め続け、確かに門は開かれました。私はこれまでの自分の罪を認め、私の罪の為に死んでくださったイエス様に感謝します。また、神様とともに罪と闘いながら共に歩いていきたいと思ひます。■

(前ページからの続き)

PAX ROMANA の時代

キリストが地上を歩き、新約聖書が書かれた今から二千年前はパックス・ローマナ（紀元前28年から紀元180年）と呼ばれ、ローマ帝国において平和が200年続いている最中でした。地中海沿岸はどこも比較的 safely に旅をすることが出来、貿易が盛んに行われ、世界中からあらゆる富がローマ帝国に流れ込んで来ていました。少数・特権階級に当たるローマ市民は生活を謳歌し、生産力旺盛な一般市民も多数おり、さらにおびたしい数の奴隷たちが存在していました。考えられないほどの貧富の差がありながらも、奴隷ですら生活が極端に脅かされていなくて、社会全体は潤っていました。当時の様子は新約聖書のコリント人への手紙やローマ時代の古文書を通して知ることができますが、驚くなかれ、**Keeping up with the Joneses** の人々の姿がそのまま描かれています。2000年経っても実は何一つ変わっていないのが人間です。

あらゆる境遇は神からの使命を果たすための手段

使徒パウロはユダヤ人でありながら生まれながらにしてローマ市民権を持ち、最高の学問を学ぶ特権にも与った人でした。現代で言えば超エリートだったのです。しかしキリスト教徒になり、さらに迫害下、伝道者になったことにより、抑圧と貧困の極みも体験した人です。若い頃は人より優れることに執念を燃やしていたような人でしたが、キリストと出会い、価値観が根本的に変えられたのです。彼は次のように書き残しています。

ピリピ 4:11-12 乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。

満ち足りるその秘訣とは何でしょうか。それは、神が与えて下さっている「使命」つまり「生きる目的」にしっかり根ざして生きることなのです。神が目的を持って私たちを創造され、果たすべき使命を与えて下さっていることを理解するなら、私たちが直面するあらゆる境遇は、その使命を果たすための通過点や手段でしかないこととなります。境遇そのものは目的とならず、互いの境遇を比べる必要も無くなります。パウロは豊かさも貧困も、成功や失敗も、与えられた全てを、神の使命を果たすための貴重な経験や体験とすることが出来たのです。

比較に生きるのは本末転倒、最終的な恐ろしさ

人と比べる生き方をすることは、本来は二次的な意味しか持たない自分の境遇が気になって、本当の使命を果たさない生き方です。隣の子供があそこの塾に行き、あそこの学校に行っているから、うちの子も取り残されないために・・・というのも本末転倒なことなのです。その子供が将来、どのようにして神から与えられた使命を果たして神に栄光を帰し、本人を含め、その子供自身の家族を幸せにできるか、そして社会全体の善のために貢献できるのかという本来的な目標から発想することこそ重要です。目的から発想する癖をつけていくなら、人を嫉んだり、人と比較せずに済むようになるのです。神が毎週、私たちからの礼拝を要求なさるのは、実は私たちが正気を保ち、人生の目的からそれてしまわないようにしてくださいるためだったのです。

最後に、比較の世界で生きている人は、最終的に他人を愛することができなくなります。その人は、どんな時にも、他人を、自分の地位を確かめるための手段としてしまうからです。自分より低い人は、優越感を感じるための対象、自分より出来る人は、越えるための目標とし、越えられそうにない時には、嫉みや悪口の対象に変えてしまいます。他人は常に利用する対象です。その人は他の人を愛し、他の人に仕えることができないのです。これは恐ろしく自己中心な世界です。

本当に意味のある生き方とは

清貧、敬虔、生真面目、禁欲・・・キリスト者にはこのようなイメージが付きまといますが、楽しみも喜びも、より良いもの、優れた物を追及する性質もすべて神から来るのであり、神はそれらを禁じておられません。ただ神が与えてくださる目的からずれないことが必要なのです。企業がしのぎを削ってより新しい物、より優れた物、より便利な物、より魅力的な物を生み出し、保健衛生や医療、生活水準は向上し、社会インフラも整備され、私たちはすべての面でこれらの恩恵を受けています。しかし、もっと大きな意味でいったい、日本という国も私たちも何のために存在しているのか、と問われたなら、果たしてなんと答えたらいいのでしょうか。そしていつ、私たちは互いに比べ合う小さな世界から解放されて、神からの使命に目覚めるのでしょうか。日本人の存在が真に世界の人々の祝福となるのはいつなのでしょう。そこが問われている気がするのです。■

■ 10月～12月の集会・行事予定 ■

※ 下記以外にも週の間、入門クラス、聖書の学び会が定期的に行われています。お問い合わせください。■ 予定が変更になることがありますのでご確認ください。

- | | | |
|---|---|--|
| <p>【定例集会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 日曜礼拝 / 10:00～11:20 グループ会 / 11:30～ 12:15 大人、子供それぞれのクラスに分かれます <p>【各種集会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ グリニッチ 家庭集会 (場所は電話で) 原則第一金曜 10:00am ★ グリニッチ 聖書を読む会 金曜 10:00am (場所は電話でご確認ください) | <ul style="list-style-type: none"> ★ スタンフォード 聖書を読む会 毎週水曜 1:00pm 場所: 井上宅 ★ ハリソン 聖書を読む会 隔週火曜 10:00am 場所: ハリソン長老教会 ★ ニューヘイブン 聖書を読む会 月一回木曜 10:00am 場所: 日比野宅 ★ ハートフォード 聖書を読む会 月一回木曜 10:30am 場所: テイラー宅 | <ul style="list-style-type: none"> ★ メンズ・バイブル・フェローシップ 月二回土曜 14:00pm 荒木宅 or 教会 ★ マウントキスコ 聖書を読む会 毎週木曜 or 金曜 8:00pm 場所: 平野宅 <p>【特別行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 11/08 (日) McKeever 氏 メッセージ ★ 11/22 (日) Thanksgiving 礼拝・愛餐会、お楽しみ会 ★ 12/13 (日) クリスマス祝会 |
|---|---|--|

★サンクスギビング・バザーセール 11/07(土) 午前 9:30～午後 4:00 寄付品受付中です。

★子どもクリスマス会 特別マジックショー 12/20 午後3時、クリスマス礼拝同 12/20 午後4時

★ハーベスト・タイム: 毎週金曜朝 8時より WMB C あるいは <http://www.harvesttime.tv/> にて

★ CGNTV インターネット TV 放送 <http://japan.cgntv.net/>

★ 日本語ウェブ放送: BBN 聖書放送 <http://www.bbnradio.org/japanese/>

《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、牧師 立石尚志

c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830 website: www.jgclmi.com

《問い合わせ》教会 TEL/FAX (203) 531-6450、牧師宅 TEL/FAX (203) 531-1609、e-mail: jgclmi@verizon.net

